

富山県建設業協会

# 県立大学の女子学生が現場見学

## 女性技術者から働き方など学ぶ

富山県建設業協会は29日、女子学生を対象とした建設現場見学会を開催し、富山県立大学環境・社会基盤工学科1〜4年生の女子学生41名が参加した。女性技術者が実際に活躍する現場を見学し、建設業の役割や仕事内容、現場環境の改善や技術者の役割を学んだ。

この見学会は、「もつと女性が活躍できる建設業支援事業」として、同協会が富山県から受託して開催。富山河川国道事務所の担当者をはじめ、富山県土木建設技術企業課の山林絵梨子主任、



工事概要を説明する金塚氏

同協会の寺島秀峰係長、東日本建設業保証の岡山美月氏らが行った。見学会はまず、砺波市柳瀬地先の「庄川・柳瀬護岸災害復旧その2工事」(担当＝岡部)の現場を訪れた。現場代理人・監理技術者を務める岡部の高見るみ子氏が同現場について、降雨等による河川の増水によって被災した護岸の復旧を行っているとの説明。また、ICT技術全面的活用に取り組み現場であること紹介した。従来の測量・工法とICT技術を用いたものを比較し、作業の効率化や省略化を説明。学生らは実際にUAVを操縦したほか、杭打ち体験、ICT建機に乗車し、3次元設計データによる作業効率化を肌で触れた。

午後から一行は、小矢部市宇西中野地先の「小矢部川・西中野堤防強化工事」(担当＝射水建設興業)に移動。監理技術者の金塚歩美氏が工事内容や作業環境の快適化などを伝え、働き方改革として週休二日に取り組み現場であることや、仮囲いを設置することで三井アウトレットパークの利用者に向けた安全性を確保しているとの説明した。

その後、小矢部市農村環境改善センターで女性技術者と学生らの意見交換会を実施。技術者側は金塚氏、高見氏、岡部土木部の小田由紀係長が参加した。冒頭、金塚氏が自身のプロフィールや現場・休日の過ごし方などを紹介。三児の母で育児に奮闘しながらも、現場に立ち続けるための時間の過ごし方や会社の協力体制などを学生らに話した。

学生らからは、「なぜ現場の仕事に就いたか」「女性技術者ならではの



女性技術者として参加した金塚氏(左)、高見氏(中央)、小田氏(右)

大変だったこと」「残業はあるか」などの質問が飛び、金塚氏は「監理の仕事であれば男性と対等な仕事が出来ると思っていた」「女性目線を求められるが、男性より男性らしいので戸惑った」「残業はあるが、現場は日が暮れると仕事ができないのでそこまで苦にならない」などと答えた。

1年生の針木陽菜さんと石黒怜奈さんは、見学会の感想について本紙のインタビューに答え、「将来子どもが産まれた時など休日がしっかり取れるのか不安もあったが、今回技術者の方の話を聞いて、毎日が楽しそうであるので誇りを持ってもらえることが知れて良かった。見学会に参加し、建設業で働きたい気持ちが増えた」と話した。



意見交換会の様子

2018.10.31  
日刊建設新報より

# 「コミュニケーション生かし活躍を」

## 県立大女子学生が現場見学

県建設業協会

富山県建設業協会は29日、県立大学の女子学生を対象とした建設現場見学会を開いた。実際に女性技術者が活躍する北陸地方整備局富山河川国道事務所発注の砺波、小矢部両市の現場を見て回り、建設業に理解を深めた。

県からの委託事業（もっとと女性活躍できる建設業支援事業）として初めて開催。この日は、環境・社会基盤工学科の1年生から4年生の41人が参加。岡部が施工する「庄川・柳瀬護岸災害復旧その2工事」（砺波市柳瀬）と射水建設興業が施工の「小矢部川・西中野堤防強化工事」（小矢部市西中野）を順に見学した。

庄川・柳瀬護岸災害復旧その



2工事では、現場代理人・監理技術者を務める高見のみ子氏が説明に当たり、ICT技術としてドローン操作などを体験した。

小矢部川・西中野堤防強化工事の現場では、監理技術者の金塚歩美氏の案内で現場のほか、女性専用の快適トイレなども見学した。

金塚監理技術者（射水建設興業）の案内で現場を見学する県立大の学生

その後、小矢部市農業環境改善センターに移動し、高見、金塚の両氏に岡部の小田由紀土木部係長も加わり、女性技術者3氏と女子学生による意見交換会が行われた。はじめに金塚氏が工事を受注してから完成までの一連の流れを説明した後、「子育てだけでも大変だが、私は人の関わりも含めて現場が好き



3人の女性技術者との意見交換会の様子

大切。学科は短期間で勉強した」とアドバイス。待遇に関しては「施工管理では男女の差はない。資格や技術がボーナスに反映される場合もある」とし、「法律も充実してきているが、会社ごとに育児休暇や時短勤務などの制度を設けており、社内での実績を調べてみては」と答えた。

で、子どもを持つから一人の技術者として誇れる仕事が続けられることがうれしい」と話し、「コミュニケーション能力が高いと言われる女性こそ適任だと思っ。ぜひ一緒に活躍しよう」と呼び掛けた。

質疑では、一級土木施工管理技士などの資格取得について「現場で日々積み上げる実務経験が

## 女性技術者と初の意見交換会も

2018.10.31  
北日本新聞より

■建設業界が女子学生に助言  
県建設業協会は29日、県立大工学部環境・社会基盤工学科の女子学生を対象に、女性技術者との意見交換や砺波、小矢部両市の建設現場の見学会を開き、参加者41人が建設業に理解を深めた。写真。

県内建設企業への女性の就職を促進しようと企画した。意見交換は小矢部市農村環境改善センターで開催。女性技術者3人が仕事の内容や働き方、現場の環境について説明し「技



術者として誇れる仕事ができることをうれしく思う」と語った。学生は仕事に就いた理由や休暇制度などを尋ね、職業選びについてアドバイスを受けた。

これに先立ち、女子学生たちは庄川・柳瀬護岸災害復旧工事と小矢部川・西中野堤防強化工事を見学した。